

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】子供を主語にした学びを実現するための「学びの視点5（ファイブ）」①

児童生徒と視点を共有

小1・2年

学びの視点5

みつけよう！

1. 「もっと知りたい」「なぜだろう」
2. がくしゅうのほうほうや すずめかた
3. 「いいな」「まねしたい」

できるようになろう！

4. しらべる・かんがえる・つたえる
5. ふりかえり・つぎへの みとおし

小3・4年

学びの視点5

1. 友達や先生との話して「もっと知りたい」、「なぜだろう」を見つけよう。
2. 自分で学習の方法や進め方を考えて学習しよう。
3. 友達の考えのいいなと思う所や、まねしたいと思う所を見つけよう。
4. 本やタブレットで知りたいことを調べたり、自分の考えを伝えたりできるようになろう。
5. 学んだことを振り返り、次の学習の見通しをもとう。



小5・6年，中1年

学びの視点5

1. 友達や先生との対話や今まで学んだことを基に自ら課題を見つけよう。
2. 自ら学習の方法や進め方を考えて学習しよう。
3. 友達との学びから、自分の考えを広げ、深めよう。
4. 情報活用能力を発揮し、教科の学びを深めよう。
5. 学んだことを振り返り、次の学習の見通しをもとう。

中2・3年

学びの視点5

1. 友達や先生との対話、学習経験を基に、自ら課題を見つけよう。
2. 自ら学習の方法や進め方を考えて学習しよう。
3. 友達との学びから、自分の考えを広げ、深めよう。
4. 情報活用能力を発揮し、教科の学びを深めよう。
5. 課題解決の過程や学習の成果を振り返り、次の学習の見通しをもとう。

授業づくりの視点は、児童生徒の発達段階に応じた言葉に置き換え「**学びの視点5**」として各教室に掲示。教師にとっては「授業づくりの視点」、児童生徒のにとっては「**学びの視点**」とし、子供と教師で目指す姿を共有しながら学習を進めている。

児童の学びへ向かう意識も変化



過去に学習した内容を思い出し、自力で答えを導き出せたときに授業が楽しいと感じます。タブレット端末のよさは、意見を話すのが苦手な人でも、自分の考えを示すことができる場所。自分とは違う考えを知ることができて、考えを深めることができます。



個人それぞれの課題に合った使い方をしたり、それぞれの調べたい分野を自由に調べたりすることにタブレットを使っています。

情報活用能力を身に付け、主体的に取り組みながら学びを深めています。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】 子供を主語にした学びを実現するための「学びの視点5（ファイブ）」②

教師が目指す授業づくりの視点

- ①子供は友達や先生との対話，学習経験を基に，主体的に学習課題を見出すことができる
- ②子供は自己調整をしながら，主体的に課題解決に取り組むことができる
- ③子供は友達との学びから，自分の考えを広めたり，深めたりすることができる
- ④子供は情報活用能力を発揮し，教科の学びを深めることができる
- ⑤子供は課題解決の過程や学習の成果を自覚することができる



ICT機器の効果的活用

- ・ 一斉学習
- ・ 個別学習
- ・ 協働学習



授業観の転換と授業の改善

- ・ 課題解決型授業(PBL)の視点
- ・ 「複線型授業」の視点
- ・ 諸調査結果の分析
- ・ 学びの視点5

情報活用能力の育成

- ・ 情報活用能力体系表の活用
- ・ 合同研究会を通じた実践共有
- ・ 情報活用能力チェック表による成果と課題の共有

本校では、「子供たちは学びをどのように捉えているのか」を大切にした授業への転換を図るため，上記のような5つの授業づくりの視点を設定し，日々の授業改善に取り組んできた。「ICT機器の効果的活用」「情報活用能力の育成」「授業観の転換と授業の改善」を手立てとし，一人一台端末の環境を生かしながら，子供が主語となる授業づくりを目指している。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】 参加者が「課題（問い）」をもって参加する課題解決型の研究会①

紫波東学園 研究会

1 Plan 計画【参観前】

- ☐ 研究会の流れを確認する
- ☐ 本校の「5つの授業づくり5つの視点」を確認する
- ☐ 研究会を通して「何を学びたいか」イメージをもつ



2 Do 実践【授業参観】

- ☐ 5つの視点をもって、授業を参観する
- ☐ 疑問に思ったことを児童生徒に質問する（リフレクションの時間）
- ☐ 授業評価を記入する（**フォームに入力①**）



3 Check 評価【授業研究会】

- ☐ 本時の授業についてグループで感想交流
- ☐ 自身の「課題（問い）」を設定する（**フォームに入力②**）
- ☐ 課題解決を図る（個人・グループ）
- ☐ 振り返り（課題のまとめや感想）（**フォームに入力③**）



4 Action 改善【研究会終了後】

- ☐ 参観を通して得られた学びを振り返る
- ☐ 自身の授業改善を図る（授業者、参加者）

参加者の課題解決を本校教員の授業改善につなげる

【参加者の振り返り】

○交流では、いい考えが出ていたが、答えが出ない場面もあり、児童同士での交流の難しさを感じた。

○課題に対し自分のペースで学習する様子が、まさに個別最適な学びであると感じた。個別に加えて協働的な学びで、さらに考えを深め合う姿も見たいと思った。

○複線型の授業を行う上で、教師のファシリテート力、子供たちの表現力、対話力の重要性は高まることから、それぞれが身に付けていかなければならない力がより明確になった。



【本校教員の授業改善の意識】

○タブレットの活用はあくまでもコミュニケーション能力を育成する補助的なツールとして位置づけ、対人でのやりとりも大切にしながら、子供が主体的に学び、深く考えられる授業を追究していきたい。

○学習の振り返りを大切に扱っていきたい。何ができるようになったのか、なぜできるようになったのかを伝え、自分の頑張りが成長に気付かせ、学習に対する意欲付けを図りたい。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】 参加者が「課題（問い）」をもって参加する課題解決型の研究会②

全体会（研究概要説明）



研究概要の中で「授業づくりの視点」についての説明を中心にを行い、研究会では、授業者と参加者が同じ視点で協議できるようにする。

授業参観



リフレクション



参加者が疑問に思ったことを、生徒に質問する。「子供たちは学びをどのように捉えているのか」子供たちの目線で授業理解を図るために設定。

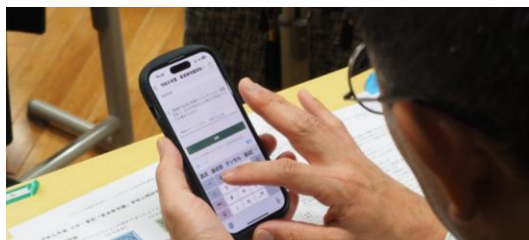
課題解決を図る協議



参加者が「参加者同士で」、「授業者と」、「個人で」等、様々な解決方法で自身の課題解決を図る。

感想交流

課題（問い）の設定



参加者が、授業参観やリフレクションを通して深めたいと考えた内容を「課題（問い）」として設定。

授業評価

令和6年度紫波東学園
学校公開研究会授業評価
中学校3年 英語

* 必須

1. 名前を記入してください。 * (1)

回答を入力してください

2. 【視点】子供は、自己顕彰しながら、主体的に課題解決に取り組むことができていましたか。 * (1)

☐ 決してありません

☐ どちらかといえばありません

☐ どちらかといえばあります

☐ すべてあります

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

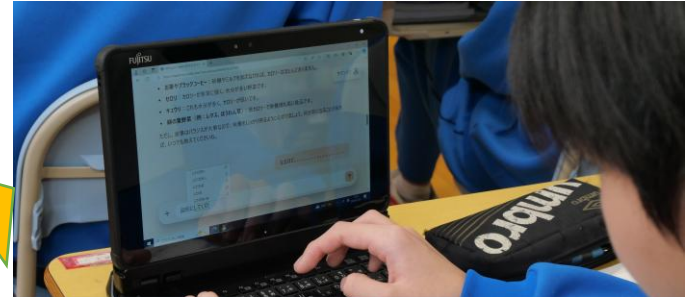
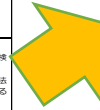
【取組内容】 情報活用能力の育成①

本校で作成した情報活用能力体系表とチェック表

生成AIを活用した情報の検索と検証

情報活用能力体系表

学習内容	(小) 低学年	(小) 中学年	(小) 高学年・(中) 1年生	(中) 2, 3年生
1. 情報と情報技術の活用に関する基礎的な知識と技能	ア タブレット端末の起動や終了、ログイン・ログアウト イ タッチペンを使った手書き入力 ウ カメラ機能を使った写真撮影 エ ファイルの読み込みや保存 オ 「ペイント3D」を使ったお絵描き カ 教材「eライブラリ」の使い方の導入	ア インターネット上の情報の閲覧・検索 イ キーボードによる文字の入力（1分間に30～40文字程度） ウ フォルダ作成によるファイルの整理 エ 文章検索、グラフを作成するソフト、プレゼンテーションソフトの簡単な使い方の オ アンケート機能を使ったアンケートの作成	ア メール等による文字の送受信の仕方 イ キーボードによるローマ字入力（1分間に50～60文字程度） ウ フォルダ作成によるファイルの整理 エ 目的に応じたアプリケーションの選択と操作 オ ビデオ会議ソフトの活用	ア キーボードによる十分な速さで正確なローマ字入力（1分間に60～70文字程度） イ クラウドを用いた協働作業 ウ 目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作 エ 統計的に情報を整理するソフトの使い方
2. 問題解決・探究における情報活用能力の育成	キ 身近なところから様々な情報を収集する方法の理解 ク 簡単な図表やグラフを用いた情報の整理の方法の理解 ケ 整理してまとめた情報を表現する方法の理解 コ 紙の資料やタブレット端末を活用した簡単な発表の仕方の理解	キ 図表や資料等による基本的な情報の収集の方法の理解 ク 簡単な図表やグラフを用いた情報の整理の方法の理解 ケ 複数の資料を組み合わせて表現する方法の理解 コ 相手や目的を意識したプレゼンテーションの仕方の理解	カ 図表や資料・図表等による情報の収集と整理の方法の理解 ク 目的に応じた表やグラフなどを用いた情報の整理の方法の理解 ケ 複数の表現手段を組み合わせて表現する方法の理解 コ 相手とのやりとりを含む効果的なプレゼンテーションの仕方の理解	カ 遠隔ネットワークなどからの効果的な情報の収集と整理の方法の理解 ク 表やグラフを用いた統計的な情報の整理の方法 ケ 目的や意図に応じて、情報を統合して表現する方法の理解 コ Webページ、SNS等による発信・交流の方法の理解
3. 情報で学ぶ・情報で学ぶスキルなどについての理解	サ 人の作った物大切にすること、他者には伝えていけない情報があること シ コンピュータを利用する際の基本的なルール	コ 自分の情報や他人の情報の大切さの理解 サ 生活の中で必要とする基本的な情報セキュリティ	コ 情報に関する自分や他者の権利の理解 サ 情報を守るための方法の理解	ケ 情報に関する個人の権利とその重要性の理解 コ 情報セキュリティ確保のための対策と対応の理解 サ 情報主権意識を踏まえたルール策定と遵守
4. 問題解決・探究における情報活用能力の育成（プログラミング活動を含む）	ス 身近な事象から課題を設定する セ 身近な事象から情報を収集し、表やグラフ、シンキングツールなどを使って、情報を整理することができる シ 課題を整理しながら、図や表、写真を用いて、自分の言葉でまとめることができる ツ 紙の資料やタブレット端末を活用し、簡単な発表をすることができる テ 情報を振り返り、その長さに気づくことができる テ 問題解決の流れを手紙を添えて振り返ることができる	シ 日常的な事象から課題を設定する セ 図表や資料等から情報を収集し、表やグラフ、シンキングツールなどを使って、情報を整理することができる ソ 複数の資料を組み合わせて、課題を整理しながら、事実と自分の考えを分けながらまとめることができる タ 相手や目的を意識した表現方法を考え、簡単な発表をすることができる チ 情報を振り返り、どのような改善が必要かを考えることができる テ 問題解決の手続きを順次、繰り返し、分岐を組み合わせて振り返ることができる	シ 地域や社会に目を向け課題を設定する セ 図表や資料・図表等から情報を収集しながら情報を整理し、表やグラフ、シンキングツールなどを使って、情報を整理することができる ソ 複数の資料を組み合わせて、課題を整理しながら、事実と自分の考えを分けながらまとめることができる タ 複数の表現方法を組み合わせ、聞き手とのやり取りを含めて、効果的にプレゼンテーションをすることができる チ 情報を振り返り、改善点を明確的に考えることができる テ 問題解決の手続きを順次、繰り返し、分岐を組み合わせて振り返ることができる	サ 現状を把握し、現在の状況や問題点を明らかにしながら課題を設定する シ 目的や状況に応じて統計的に整理し、効果的に情報を整理することができる ス 似た情報を適切に比較したり、分類したりしてこれまでの経験を生かしながら、自分なりの方法でまとめることができる ソ 目的や意図に応じて表現工夫し、WebページやSNSなどを使って表現、発信、創造する タ 情報活用を振り返り、根拠を添えて評価し、改善点を明確に考えることができる テ 問題解決の手続きを、フローチャート等を用いて表し、その評価・改善ができる
5. 問題解決・探究における情報活用能力の育成（情報セキュリティなどについての理解）	ト 課題に関する情報を調べようとしている ア 情報の活用を振り返り、よきを学ぶよう ニ 人のつくったものを大切に、他者に伝える ハ コンピュータを利用する際の基本的なルールを守って活動すること ネ 情報機器に頼り、遠くまで利用しようとする	テ 課題に対する情報活用のつながりを見つめようとする ト 自分の情報や他人の情報の大切さを認識する ア 他人の権利やプライバシーを尊重し、相手のことを考えたりとをしようとする ニ 情報や情報機器を生活の中に取り入れる	テ 情報を積極的に活用しようとしている ト 情報に関する自分や他者の権利を尊重し、必要とする ア 他人の権利やプライバシーを尊重し、その重要性を認識しようとする ニ 情報や情報機器をよりよい生活や社会づくりに活かそうとしている	ツ 事実や情報とその根拠の両方から捉えようとする テ 情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする ア 他人の権利やプライバシーを尊重し、その重要性を認識しようとする ニ 情報や情報機器をよりよい生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする



発達段階に応じた着実な育成

地区におけるボランティア活動の発表



育成した情報活用能力を発揮する場面の提供

- 児童生徒の発達段階に応じた育成状況の目安とする。
- 教師が情報活用能力の育成に関する指導の改善・充実の目安とする。
- 児童生徒が情報活用能力について振り返り、課題をもつ。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】 情報活用能力の育成②

情報活用能力チェック表

年間を通して、前年度と比較して成長と課題を把握

紫波町立紫波第二中学校
中学校3年生

情報活用能力チェック表 (紫波東GIGA中学3)

2学期の振り返りをして、3学期につなげよう。

※質問文の中に「タブレット」「キーボード」等のタブレットに関する言葉が入っている場合は、タブレットを活用した学習のことを指します。それ以外の質問文については、タブレット端末活用に限らず、学習全体の内容となります。

10. チームズなどのビデオ会議ソフトやSNSを通じて、自分の考えを発信したり、交流したりすることができますか。

- ☐ できる
- ☐ どちらかといえばできる
- ☐ どちらかといえばできない
- ☐ できない

11. 文章や発表資料をまとめるときに、これまでの学習経験を生かして、自分なりの方法でまとめることができましたか。

- ☐ できた
- ☐ どちらかといえばできた
- ☐ どちらかといえばできなかった
- ☐ できなかった

情報活用能力チェック表の質問項目（全17問から抜粋）抽出：中学校1年生～中学校3年生児童生徒
※積極肯定「当てはまる」を選んだ生徒の割合

知りたいことを調べたり、調べたことを発表したりする活動を振り返り、これからの課題を考えることができましたか。

タブレットを自分の学習を深めたり、生活をよりよくしたりするために進んで使うことができたか。

タブレットを使う時のきまりや約束を守ることができたか。

R5

R6

比較

42%

56%

+14

67%

78%

+11

86%

81%

-5

生徒の振り返り（記述）

- ・自分なりの方法で解決をしたい。
- ・相手が見て分かりやすい資料を作れるようになりたい。
- ・自分でアプリを選んで、調べたことをまとめたり発表したりしたい。
- ・発表などをするとき、相手に伝わるように発表したい。

○生徒が自分の課題を把握し、目標をもつことができるように、学期ごとに振り返りを行う

○教師は、「情報活用能力チェック表」から学習状況を把握し、授業改善につなげるために活用。

子供たちの学習状況や思いを受け止め、授業改善につなげる